

平成29年度事業報告書

平成 29 年度 事業報告書

I. 事業の概要

自転車は近距離交通手段・運搬手段としての利便性・経済性が高く、通勤・通学・買い物等広く市民生活の中で利用されている。加えて、現代人の健康志向を受けてスポーツ・レクリエーションの用具としての活用も高まってきている。また、近年、地球温暖化防止が世界的な緊急課題となってきた中、その対策の一つとして、自転車の無公害・省資源性が注目されていることなどから、一層の自転車利用が進んでいる。

しかしながら、自転車乗用環境の整備はいまだ立ち遅れており、自転車利用者のモラルの低下などによる鉄道駅周辺や商店街地区などに見られる自転車の放置問題なども十分に改善されているとは言い難い状況にある。また、交通ルール・マナーに関する教育も十分とは言えず、取り締まりも追いついていない中、自転車交通事故の減少は鈍く、未だに交通事故の約 2 割で推移している。特に、歩道上においての人と自転車の事故が目立っており、事故の補償を巡るトラブルの増加、賠償金の高額化など、深刻な社会問題となっている。

こうした状況の中、平成 27 年 6 月 1 日より改正道路交通法の一部が施行され、信号無視、酒酔い運転などの違反を繰り返す悪質な自転車運転者に対し、安全講習の受講が義務付けられることになるなど、自転車の安全利用促進に繋がることが期待される。

加えて、平成 29 年 5 月 1 日付で、議員立法による『自転車活用推進法』が施行され、当会が自転車月間推進協議会事務局として普及啓発してきた「5 月 5 日は自転車の日」「5 月は自転車月間」ということが、同法第 14 条において新たに定められた。

本会としても、自転車駐車場の整備や専用レーンの設置をはじめとする自転車の乗用環境の整備を積極的に推し進めていくとともに、道路交通法等関連法規の見直しを提案し、併せて、自転車利用者に対し交通規則遵守、マナーの向上を促す啓発活動を実践していくことが重要となっている。

本会は、このような認識のもと、国民が自転車を安全かつ快適に利用できる環境の早期実現を目指し、自転車利用により得られる様々な社会的効用を広めるため、競輪補助事業あるいは一般事業として、自転車安全利用の普及啓発、環境の整備促進等に関する事業を関係各方面の協力を得て次のとおり実施した。

*なお、以下で【※】の事業については、(公財)JKAの公益振興補助事業として実施した。

1. 自転車競技の普及促進事業

(1) ツアー・オブ・ジャパン開催の全体管理に関する事業【※】

(2) ツアー・オブ・ジャパン富士山・東京ステージ開催・広報事業【※】

自転車競技を通じて青少年の国際交流と国民体育の向上に寄与することを目的に、5月の「自転車月間」主要行事として国際自転車競技連合(UCI)公認の自転車レース「第20回ツアー・オブ・ジャパン」を全8ステージにおいて開催した。全ステージ公道を使用したコース設定であり、一般市民やマスコミに対しても、注目度の高い大会となった。

また、「2018 ツアー・オブ・ジャパン」の周知浸透を図るため、パブリシティ活動など広報活動の準備や大会開催記者発表を行った。

2. 自転車と人にやさしい健康で安全な社会づくりを推進する活動

(1) 自転車月間推進事業【※】

「自転車月間(自転車の日/5月5日)」の趣旨を広く一般に周知するため、自転車月間記念行事「サイクルドリームフェスタ」を聖徳記念絵画館前通り(東京都新宿区霞ヶ丘町)及び神宮外苑サイクリング道路において開催した。

また、平成30年度5月の自転車月間事業に向けて、自転車月間推進協議会総会を開催した。

(2) 自転車文化センター運営事業【※】

自転車利用方法に関する正しい認識と理解を深めるとともに、国内における自転車文化を醸成するため、本会が運営する自転車に関する総合情報提供施設「自転車文化センター」を中心に、次の事業を行った。

① 自転車に関する総合情報提供事業【※】

自転車に対する市民及びメディアの関心は高く、各種自転車情報収集のニーズに対応するため、国内外の自転車関連資料及び情報の調査・収集を行った。

収集した資料・情報は、データベース等で管理し、研究成果と併せて、展示やスタッフの対応を通して来館者に提供した他、現物及びデータ資料等をメディアや自治体が主催するイベント等に貸し出しを行った。

また、当センターのホームページ、Facebookにおいて成果を広報した。

② 自転車に関する企画催事の実施【※】

乗り手の体格・用途に合わせて自転車をオーダーメイドで作る、高い技術を持ったハンドメイドビルダーが製作した自転車や各種パーツ、また高齢者・障がい者向けの特種な自転車を一堂に会して紹介する「2018 ハンドメイドバイシクル展」を、平成30年1月20日(土)、21日(日)に開催した。

本催事は、年々人気が高まっており、今年の入場者数は3,002人と2年続けて来場者3,000人を超えた。また、出展社も過去最も多い50社で実施した。

③ 自転車に関するテーマ展示【※】

自転車に関わる社会文化の歴史や自転車競技等について、当センター所蔵資料を中心に、最新の情報を加えた紹介・展示を実施。自転車に対する興味・関心を深めてもらうとともに、自転車の魅力や新たな活用方法等を発信するため、テーマを変えた展示を計6回開催した。

④ 自転車教室(楽しさと安全利用) 【※】

自転車の楽しみや魅力を伝えることを目指して、夏休み期間中に一般の方が参加・体験できる「夏休み自転車教室」を科学技術館にて開催した。

加えて、地方自治体等からの依頼を受けて、当センター学芸員、自転車安全教育指導員資格を有するスタッフが講師となり、幼稚園児や小学生とその PTA、また高齢者等を対象に、パワーポイントを使った座学講習や、当センター所有の自転車シミュレーターを活用した実技体験や反応神経測定ができる機器を活用した体験コーナーなどを盛り込んだ出張形式の自転車交通安全教室を、合計 14 回開催した。

⑤ 自転車常設企画展示

年間を通じて、多数の来場者がある千代田区の科学技術館(展示室名:自転車広場【※】)及び伊豆の日本サイクルスポーツセンター・ベロドロームにおいて、当センターの施設紹介と歴史的自転車の展示による広報活動を行った。

⑥ 自転車利用環境調査研究 【※】

当センターの学芸員 1 名及び職員 2 名が、自転車文化の承継と普及、ならびに現在・未来における「人と自転車」「社会と自転車」との関わりを考える提案のための研究調査を行い、「今取り組むべき課題『自転車の交通安全教室』の必要性について」、「サイクリングツアーのすすめ」、「子乗せ自転車利用者のヘルメット着用についての考察」、「2018 ハンドメイドバイシクル展についての考察」、「高齢者のハンドルとサドルの高低差による自転車運転状況調査」、「高齢者の自転車転倒事故と道路環境」をテーマに 6 本のレポートにまとめて報告書を作成し、全国都道府県立図書館や交通安全協会等に送付した。

(3) バイコロジー推進事業 【※】

自転車の有効利用を奨励し、安全かつ快適に利用できる環境の実現を目指すバイコロジー運動を全国の地方組織を通じて実施した。

駅前などの街頭においては、自転車乗用環境の啓発に関する事業として、自転車利用者のルール遵守とマナー向上を図るキャンペーン等を行った。

また、バイコロジー運動のリーダーを育成し、自転車市民権運動の活性化を図ることを目的として、バイコロジー指導者養成セミナーを開催した。

(4) 自転車ポタリング

自転車は軽車両であり、車の仲間であり車道の左側を走行する乗り物であることを、一般の方に改めて知ってもらう機会として、参加者の方に楽しみながら自転車に乗ってもらい、自転車の正しい乗り方、ルールやマナー、車道走行する際の注意点等を学ぶ場を創出することを目的として、本年度においては、セミナーで関連テーマの講師を招聘した。

(5) 自転車利用実態調査

都内における自転車利用の実態を把握するための走行台数、走行空間等の調査を、年間を通して行った。

3. 自転車 ADR 事業 注) ADR…裁判外の法的紛争解決手続きの総称

自転車関係団体の協力の下、法務省の認証を得た自転車 ADR センターにおいて、自転車が関係する交通事故を専門に扱う ADR の業務を、年間を通して行った。

4. 自転車関連機器の普及等事業

自転車競技運営に欠かせない映像機器、投票業務用機器等のリースを、希望施行者に対して実施した。

また、自転車競技の円滑な運営と高い競技レベルの維持に資するため、競技用自転車タイヤに関し、本会で製品の備蓄を行い、利用者に販売する他、関連する自転車アクセサリーの販売も行った。

5. 財団の運営に関する業務

平成 29 年 5 月、6 月及び平成 30 年 3 月に通常理事会(6 月は書面審議)を開催し、平成 29 年 6 月に定時評議員会を開催した。また、評議員会終了後、平成 28 年度公益目的支出計画実施報告書を内閣府公益等認定委員会に提出した。

「自転車総合ビル」関係では、大規模改修工事を着手(完了は平成 30 年 5 月予定)した。また、「赤坂一丁目再開発ビル(正式名称:赤坂インターシティ AIR)」関係では、平成 29 年 8 月に竣工(建築工事完了)した。

II. 事業の実施状況

1. 自転車競技の普及促進事業

(1) ツアー・オブ・ジャパン開催の全体管理に関する事業

(2) ツアー・オブ・ジャパン富士山・東京ステージ開催・広報事業

5月の「自転車月間」の主要行事として、我国における自転車競技の普及発展に資するため、UCI(国際自転車競技連合)公認の日本唯一の都府県をまたぐステージレース「ツアー・オブ・ジャパン」自転車ロードレースを、第20回大会として平成29年5月21日～5月28日に開催した。UCIクラス2.1へのランクアップにより、トップレベルの選手が集うプロチームの参加が可能となり、海外チームからも出場オファーが多数寄せられる大会となった。これにより、一般観客に向けた自転車競技の普及促進、既存ファンの満足度向上、新規ファンの獲得、さらに海外の強豪選手と共にレースを走ることにより国内選手の自転車競技レベルの向上が図られる。コースについては堺、京都、いなべ、美濃、南信州(飯田市)、富士山(小山町)、伊豆、東京の全8ステージ(最大日程の8連戦)、総走行距離743.75kmで、国内8チーム、外国8チーム計96名の選手参加により実施した。

本大会は公道を使用して行うレースであり、広く一般に対し、いまだ軽視されがちな「自転車は軽車両である」という認識を高め、自転車走行環境の整備、利用者の交通ルール遵守、走行マナー向上等の重要性の周知を図り、さらに、身近である乗り物「自転車」によるロードレースを通し、その魅力・素晴らしさや可能性をPRすることで、我が国の自転車市民権の確立を目指した。

また、本大会を開催している地域の知名度の向上、大会を観光資源の一つとしたスポーツツーリズムの確立、地域の文化や経済の活性化に繋がる地域興しのモデルケースとなるよう努めた。観客数については、いなべ・美濃ステージでは前年を上回ったものの、南信州・富士山ステージでは雨に見舞われたことや、昨年平成28年度・第19回大会で、大腿骨骨折の大怪我から復帰して伊豆ステージで優勝し大声援を受けた新城幸也選手が、本年度欠場したことなどにより、全体として来場者がやや伸び悩んだ。(平成28年度計/367,200人、平成29年度計/351,200人 ※対前年比95.6%)。

また、併せて、各会場において、自転車乗用時のルール・マナーの啓発を図った他、“自転車は車道の左側を走行しましょう”等の自転車の安全で正しい利用を訴えた。

広報活動については、大会2ヶ月前にSUBARU本社ビル(恵比寿)にて記者発表を行い、大会の告知と取材誘致を図った。さらに、自転車月間の趣旨の周知を図るためプレスリリース及び大会告知ポスター・チラシを作成し、配布・提出した他、ホームページ及びFacebook(いいね件数8,849件/対前年比111.3%)も活用し情報発信を行った。

その他、大会の周知浸透を図るため、テレビ、雑誌等を活用した広報活動も行うとともに、今年初めて全8会場(堺・京都・いなべ・美濃・南信州・富士山・伊豆・東京ステージ)においては、ファンサービスの一環として大型映像装置による中継を実施した他、同じく全8ステージ会場でFresh! By AbemaTVにおけるライブストリーミング配信を行った結果、大会期間中トータルの視聴者数が183,572人(対前年比79.3%)となり、大変大勢の人々に観て頂いた。報道掲載件数は計362件(対前年比100.2%)となり、やや目標値を下回ったが、視聴者の情報入手先やメディア等の広報展開の場が、紙媒体からインターネットに大きく移行しつつある現状から見ると、とても大きな効果を得たと評価している。

また、2017年5月11日(木)に、大会事前告知番組をBS日テレにて放映し、上記の観客動

員に結び付ける一助としたと共に、2017年7月8日(土)にBS日テレにて大会総集編番組を放映し、大変好評であった。

加えて、次年度開催の「2018 ツアー・オブ・ジャパン」の実施に向けて、コースの設定・招待チームの選定など、大会実施概要を策定し準備を行ったほか、「2018 ツアー・オブ・ジャパン」の周知浸透を図るため、パブリシティ活動などの広報活動の準備や以下のとおり大会開催記者発表を行った。

① 実施の概要

5月21日(日)堺ステージ 大阪府堺市(13時35分スタート)

大仙公園周回コース *個人タイムトライアル

2.65 km × 1 周 = 2.65 km

5月22日(月)京都ステージ 京都府京田辺市(9時25分スタート)

(セレモニーラン: 普賢寺ふれあいの駅 → 同志社大学京田辺キャンパス

→ 普賢寺小学校 5.5 km) 普賢寺小学校 → けいはんなプラザ周回コース

〈パレード 3.4 km〉 4.2 km + 16.8 km × 6 周 = 105.0 km

5月23日(火)いなべステージ 三重県いなべ市(9時20分スタート)

阿下喜駅前 → 下野尻交差点 ~ 農業公園(梅林公園)周回コース

〈パレード 2.8 km〉 8.6 km + 14.8 km × 8 周 = 127 km

5月24日(水)美濃ステージ 岐阜県美濃市(9時15分スタート)

旧今井家住宅前 → 横越 → 美濃和紙の里会館前周回コース

〈パレード 4.0 km〉 11.6 km + 21.3 km × 6 周 = 139.4 km

5月25日(木)南信州ステージ 長野県飯田市(9時15分スタート)

飯田駅前 → 下久堅周回コース → 松尾総合運動場前

〈パレード 7.3 km〉 12.2 km × 10 周 + 1.6 km = 123.6 km

5月26日(金)富士山ステージ 静岡県駿東郡小山町(8時45分スタート)

(セレモニーラン: 小山町生涯学習センター → 須走商店街 → ふじあざみライン入口 13.2 km)

ふじあざみライン入口 → 富士山須走口 5 合目(ヒルクライム)

11.4 km (標高差 1,200m 登坂)

5月27日(土)伊豆ステージ 静岡県伊豆市(9時30分スタート)

日本サイクルスポーツセンター周回コース

12.2 km × 10 周 = 122.0 km

5月28日(日)東京ステージ 東京都(11時スタート)

日比谷シティ前 → 大井埠頭周回コース

〈パレード 1.2 km〉 14.7 km + 7.0 km × 14 周 = 112.7 km

総距離 743.75 km

② 出場チーム

海外 / バーレーン・メリダ(バーレーン)、NIPPO・ヴィーニ ファンティーニ(イタリア)、ユナイテッドヘルスケア プロフェッショナルサイクリングチーム(アメリカ)、アタッキ・チームゲスト(スロベニア)、アイソウェイ・スポーツ・スイスウェルネス(オーストラリア)、タブリーズ・シャハルダリ・チーム(イラン)、チーム・ダウン・D&DQ AKKON(ドイツ)、トレンガヌ・サイクリングチーム(マレーシア)

国内 / チーム右京、キナンサイクリングチーム、宇都宮ブリッツェン、ブリヂストン アンカー サイ

クリングチーム、マトリックス パワータグ、シマノレーシングチーム、愛三工業レーシングチーム、日本ナショナルチーム

③ 成績

個人総合時間賞 オスカル・プジョル・ムニョス(チーム右京)
 個人総合ポイント賞 マルコ・カノラ(NIPPO・ヴィーニファンティーニ)
 個人総合山岳賞 初山 翔(ブリヂストン アンカー サイクリングチーム)
 ※日本人が 20 年ぶりに獲得
 新人賞 ドメン・ノヴァク(バーレーン・メリダ)
 団体総合時間賞 チーム右京

④ 観客数

堺ステージ 76,000 人 (天候:晴れ)
 京都ステージ 50,000 人 (天候:晴れ)
 いなべステージ 22,000 人 (天候:晴れ)
 美濃ステージ 30,000 人 (天候:晴れ)
 南信州ステージ 33,000 人 (天候:雨)
 富士山ステージ 8,000 人 (天候:雨)
 伊豆ステージ 20,200 人 (天候:晴れ)
 東京ステージ 112,000 人 (天候:晴れ)
 計 351,200 人

⑤ 広報活動

《第 20 回大会》

- ア.大会の告知と取材誘致及び自転車月間の趣旨の周知を図るため、プレスリリースを作成しマスコミ各社に送付した結果、新聞、雑誌、WEB にて多数取り上げられた。
- イ.大会告知ポスターやチラシを作成し、4月から5月にかけて全国の関係団体等に配布、提出したほか、公式プログラムを作成、販売した。また、ホームページ、Facebook も作成し、情報の発信を行った。
- ウ.今年初めてツアー・オブ・ジャパン全 8 会場(堺・京都・いなべ・美濃・南信州・富士山・伊豆・東京ステージ)において、ファンサービスの一環として大型映像装置による中継を行った。また同じく全 8 ステージ会場で Fresh! By AbemaTV におけるライブストリーミング配信を行った。加えてツアー・オブ・ジャパン各会場において、自転車乗用時のルール・マナーの啓発を図った。
- エ.大会の周知浸透を図るため、テレビ、雑誌等を活用した広報活動を展開した。

a. テレビによる広報

| 放映日 | 番組名 | 放送時間 | 放送波 |
|-------------|---|-----------------|-------------|
| 5/11 (土) | 【事前告知番組】 いよいよ開幕！アジア最大級の自転車レース 第 20 回ツアー・オブ・ジャパンの魅力 | 17:00 ～17:30 | BS 日テレ |
| 6/11 (日) | 【東京ステージダイジェスト番組】 第 20 回ツアー・オブ・ジャパン～東京ステージダイジェスト | 11:30 ～12:30 | 日テレ ジータス |
| 7/8 (土) | 【総集編】 第 20 回ツアー・オブ・ジャパン総集編 | 16:00 ～17:00 | BS 日テレ |

b. 自転車専門誌による広報

| 掲載誌名 | 掲載号 | 掲載内容・スペース |
|----------|-----|--------------------|
| サイクルスポーツ | 6月号 | ツアー・オブ・ジャパン告知記事 1頁 |
| バイシクルクラブ | 6月号 | ツアー・オブ・ジャパン告知記事 1頁 |
| バイシクル 21 | 5月号 | ツアー・オブ・ジャパン告知記事 1頁 |

▼また、ツアー・オブ・ジャパンに併せて、次の大会を開催した。

1. 「第7回堺国際クリテリウム」

- (1) 期 間:平成29年5月21日(日)[10:50~11:35]
- (2) コース:大阪府堺市 大仙公園周回コース(ツアー・オブ・ジャパン堺ステージと同コース)
- (3) 参加者:合計96名 *ツアー・オブ・ジャパン全出場選手

2. 「第6回JBCF(全日本実業団自転車競技連盟)堺クリテリウム」

- (1) 期 間:平成29年5月21日(日)[11:45~13:05]
- (2) コース:大阪府堺市 大仙公園周回コース(ツアー・オブ・ジャパン堺ステージと同コース)
- (3) 参加者:合計111名

3. 「第1回JBCF ふじあざみラインヒルクライム」

- (1) 期 間:平成29年5月26日(金)[9:00~11:30]
- (2) コース:静岡県駿東郡小山町「ふじあざみライン」
(ツアー・オブ・ジャパン富士山ステージと同コース)
- (3) 参加者:合計92名

4. 「自転車月間 第6回JBCF 大井埠頭ロードレース」

- (1) 期 間:平成29年5月28日(日)[9:15~10:30]
- (2) コース:東京都品川区 大井埠頭周回コース
(ツアー・オブ・ジャパン東京ステージ周回コースと同コース)
- (3) 参加者:合計92名

《2018年(第21回)大会》

ア. 「2018 ツアー・オブ・ジャパン」公式記者発表

実施日:平成30年3月28日(水)18時~20時

実施場所:SUBARU STAR SQUARE(エビススバルビル 1F)

登壇者:MC:Alee/進行:栗村修(大会ディレクター)/大会冠協賛社御挨拶:NTN株式会社 大橋啓二常務取締役/トークショーゲスト:窪木一茂選手(チームブリヂストンサイクリング)、小野寺玲選手(宇都宮ブリッツェン)

取材社数:34社 計43名/協賛企業関係者8名及び事前募集の一般ファン約40名が参加。

掲載メディア:サイクリスト.jp・日刊スポーツ.com・サイクルスポーツ web・シクロワイヤード・共同通信社及び時事通信社が取材・配信(各加盟社宛)・TBS・テレビ朝日・毎日放送・テレビ大阪・テレビ愛知他が取材

本記者発表会において、2018年(第21回)大会の開催にあたり、特別協賛各社・協賛各社のご支援を頂くと共に、創業100周年を迎える世界的ベアリングメーカーであるNTN株式会社より、自転車と大会理念へのご賛同を頂き、冠協賛2年目継続を頂いたこと、2018年大会

のリーダージャージや各ステージの魅力、TOJKidsやホームステージチームの紹介等を発表すると共に、トークショーにおいて窪木一茂選手と小野寺玲選手をゲストに、自転車ロードレース選手のレースへの熱い想いを伺いながら、新規ファンの獲得を目指すPRを行った。

2. 自転車と人にやさしい健康で安全な社会づくりを推進する活動

(1) 自転車月間推進事業

「自転車月間」は、昭和56年5月に「自転車の安全利用の促進及び自転車駐車場の整備に関する法律」が施行されたことを機に、自転車の持つ社会的責任を自覚しつつ、改めて自転車の可能性とそれを取り巻く諸問題の解決策などについて検討する機会として設定された。

① 自転車月間推進協議会の開催

昭和56年度に関係省庁の後援を得て、自転車関係団体及び自転車月間の趣旨に賛同した公益法人等39団体(平成29年度においては29団体)によって「自転車月間推進協議会」が設置された。「自転車月間」の趣旨に沿った事業を重点的に実施することを目的として会議を開催し、事業報告・決算の承認を行った。

ア. 平成29年度第1回自転車月間推進協議会総会

日時: 平成29年7月25日(火)14時～

イ. 平成29年度第2回自転車月間推進協議会総会

日時: 平成30年3月20日(火)14時～

② 「自転車の日」記念事業

自転車月間の設定趣旨を普及啓発するため、平成10年から5月5日を「自転車の日」と定め、その記念行事として聖徳記念絵画館前通り(東京都新宿区霞ヶ丘町)及び神宮外苑サイクリング道路において「サイクルドリームフェスタ2017」を開催した。

来場者数は6,199人(対前年比111%)と前年度より1割以上増加した。

滞在時間が長く、アンケート集計にも面白かったという意見が多かった。ゴールデンウィーク期間中の開催ということもあり、家族連れが多く来場し、「ピーポくんの交通安全教室」や「自転車の乗り方教室」などを通じて、親子でルール・マナーを楽しく学ぶことや、試乗機会の少ない高級スポーツバイクと電動アシスト自転車で走る事で街乗りの軽快車との違いを体験するなど自転車に関する理解を深める場を提供することができた。

日時: 平成29年5月5日(金・祝) 10:00～16:00

場所: 聖徳記念絵画館前通り(東京都新宿区霞ヶ丘町)及び神宮外苑サイクリング道路

来場者数: 6,199人

(イベント内容)

<ステージイベント>

ア. 我らワールドトークショー

・DJサッシャ氏/栗村 修 ツアー・オブ・ジャパン大会ディレクター

イ. ピーポ君の自転車安全教室 *協力: 警視庁四谷警察署

ウ. 輪行実演ステージ *協力: アズマ産業(株)

エ. 自転車メンテナンス講座 *協力: なるしまフレンド

オ. インドアサイクリング *協力: (株)キノカンパニー

<体験イベント>

ア. 自転車体験試乗会 *協力: (株)シマノ、パナソニックサイクルテック(株)、

ブリヂストンサイクル(株)、(株)ミヤタサイクル、プロショップタカムラ製作所、
アメアスポーツジャパン(株)、Y's Road、平和技術研究所、5LinKs Co.Ltd、
ヨネックス(株)、東洋フレーム(株)、WINSPACE JAPAN、(株)エイト、Life Bike、
(株)紀洋産業

- イ. おもしろ自転車試乗会 * 協力:(一財)日本サイクルスポーツセンター
- ウ. 自転車キッズ検定 * 協力:日本マウンテンバイク協会
- エ. 自転車交通安全シミュレーター * 協力:東京都
- オ. パンク修理体験 * 本会職員が実施
- カ. 自転車乗り方教室・白バイと記念撮影 * 協力:警視庁四谷警察署
- キ. 発電自転車体験コーナー
- ク. サイクルスピリッツ * 協力:日本トーター(株)
- ケ. デザインサイクル展示会試乗コーナー * 協力:東京サイクルデザイン専門学校
- コ. 俊敏性テストコーナー
- サ. スタンプラリー
- シ. 自転車月間・バイコロジーPR
- ス. パネル展示<「自転車月間とは」「自転車に乗って健康になろう」「自転車安全利用五則」「エコ通勤のすすめ」「バイコロジーってなに?」「ツアー・オブ・ジャパン」>

(広報)

【事前】チラシ 6,000 枚を作成し、4 月から 5 月にかけて、開催地である東京都内を中心とした関係団体等に配布した。また自転車専門誌(サイクルスポーツ 6 月号)と雑誌(『じゃらん』ゴールデンウィーク特集号)に告知広告を掲載した。また本会ホームページや自転車愛好者のアクセス数が高いホームページ(Cyclist、cyclo wired等)や新聞、テレビなどへのプレスリリース配信等の広報を行った。さらに、フェイスブックに広告を掲出し、一般向けに告知を行い、来場者の招致につなげた。

また NHK『ひるまえほっと』5 月 1 日放映で、本イベントの開催告知が取上げられた。

【当日】会場付近にて、チラシを配布し、会場への誘導を行った。

また TBS『N スタ』5 月 5 日夕刻放映及びテレビ東京『夕方サテライト』5 月 5 日夕刻放映において、『5 月 5 日「自転車の日」』をテーマに本イベントが当日取材で取上げられた。

【事後】本会ホームページに実施結果を掲載すると共に、JSPORTS『BOOMER』にて、5 月 26 日放映で本イベント開催の様子が放送された。

(2)自転車文化センター運営事業

自転車に関する正しい認識と理解を深め、自転車文化を醸成するため、本会が運営する総合情報提供施設「自転車文化センター」を拠点に、競輪からの支援による自転車関連の補助事業或いは当財団の自主事業による調査研究、資料の収集、情報の提供および広報活動等を行った。

①自転車に関する総合情報提供事業

国内外の自転車の実物・図書・映像ならびに関連資料及び情報の調査・収集を行い、収集

した資料・情報は「自転車データベース」に登録して管理・保管し、来館者やマスコミ等に対して情報提供を行った。

(平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月の新規登録資料 778 点)

平成 26 年 4 月 2 日より目黒・自転車総合ビルにリニューアルオープンをして、満 4 年を迎えた自転車文化センターには、本年度 6,367 人^{※注}(1 日平均 21 人)が来館した。これら来館者に対して問合せ・図書等資料貸出に対応すると共に、電話・FAX・e-mailによる問合せや相談・質問 97 件に対して、ご依頼内容を解決するための相談対応や情報提供を行った。

また、平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月までの自転車文化センターホームページのページビュー件数は、126,339 件となった(*平成 10 年の運用開始からの述べアクセス件数は 2,635,701 件となっている)。

さらに、資料貸出・取材協力・監修協力・出演依頼を受け、学芸員を中心に協力等の対応を行った(*別紙 1「平成 29 年度自転車文化センター取材・協力等一覧」参照)

※注:平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日の来館者数合計。テーマ展示開催期間中の来館者数合計とは異なる(4 月 1 日～11 日の来館者はテーマ展示来館者数に加算されていないため)。

②自転車に関する企画催事の実施

自転車の総合情報発信施設である自転車文化センターが、過去 20 年以上に亘って開催してきた『ハンドメイドバイシクル展』は、自転車競技「競輪」の最高峰で活躍する選手が使用する自転車などのオーダーメイド自転車展示を行うイベントである。そして、サイクリング愛好家からも好評を得ており、中でも国内メーカーの自転車は海外の類似展示会においても高い評価を受ける技術を擁している。日本および海外のハンドメイドビルダー、パーツメーカーの高い技術と自転車に対する深い造詣、そうした“匠”の技を自転車愛好家のみならず広く一般の人々にも身近に感じてもらい、周知するため、本企画催事を実施した。本イベントは、NHK ニュースにも取り上げられるなど広く一般への周知も図られた。

名称:『2018 ハンドメイドバイシクル展』

期間:平成 30 年 1 月 20 日(土)・21 日(日) 9:30～16:50

場所:科学技術館 1 階 1～4 号催事場

内容:ア. ハンドメイドビルダーによる実車及びパーツメーカーによる部品の展示

- ・「スポーツ用自転車」部門
- ・「街乗り用(高齢者・障害者用含む)自転車」部門
- ・「独創自転車」部門
- ・「独創的パーツ」部門

イ. スペシャルトークショー(3 名/各約 30 分)

- ・ガールズケイリン 梅川 風子選手 1 月 20 日 11:30～
- ・エム、マキノサイクルファクトリー 坂西 裕氏
自転車ジャーナリスト 田村 浩氏 1 月 21 日 11:30～

ウ. ハンドメイドビルダーによるトークショーの実施(2 社/各約 30 分)

- ・渡辺捷治製作所 渡辺 捷治氏 1 月 20 日 14:00～
- ・東叡社 山田 博氏 1 月 21 日 14:00～

エ. 主催者特設展示コーナー

自転車を構成するパーツを出展社協力の下、各社思い入れのあるパーツを持

ち寄り展示。また自転車文化センター所有の素材の異なるフレーム3種を展示した。昨年好評だったやすり掛けコーナーは出展社の協力のもと、実演コーナーとして実施するなど、初心者にも分かりやすくハンドメイドバイクの魅力を紹介する展示コーナーを設置した。

来場者数:合計 3,002 人(20日 1,589 人/21日 1,413 人)

③自転車に関するテーマ展示

自転車文化センターギャラリー・ライブラリーにて、企画したテーマ毎に所蔵資料を活用し、紹介するテーマ展示及び特別展示を開催した。自転車への親しみを深めてもらうとともに、自転車の新たな魅力・利用方法等について周知した。

ア. 名称:第1回テーマ展示「自転車月間・ツアー・オブ・ジャパン展」

期間:平成29年4月12日(水)~7月2日(日)

内容:自転車月間中央大会~サイクルドリームフェスタの歴史紹介

サイクルドリームフェスタ2017紹介

自転車活用推進法案の概要紹介

ツアー・オブ・ジャパンに係る旧ロードバイクの展示

TOJ出場2チーム実車・チームジャージ展示

TOJリーダージャージ展示

TOJ2016大会総集編TV番組及びTOJ2017告知ダイジェスト放映

TOJ2017Abema FRESH!レースライブ中継

入場者数:1,367人

イ.名称:第1回特別展示「七月の輪祭~ツール・ド・フランス展」

期間:平成29年7月5日(水)~30日(日)

内容:毎年7月に開催される世界最高峰のレースであるツール・ド・フランスの新旧情報を併せて展示。JSPORTSや2017ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム実行委員会の協力を得、同大会の選手サイン入りリーダージャージやオフィシャルグッズ、写真等も展示し、開催期間中は、レース映像の録画放送を実施した。

入場者数:676人

ウ.名称:第2回テーマ展示「クラシックからキャラクターまで-ミニチュア自転車展」

期間:平成29年8月2日(水)~10月29日(日)

内容:自転車文化センター所蔵の様々なミニチュア自転車を展示。精巧に作りこまれた縮小スケールのもや、ワイヤーワークや木で作られたもの、6人乗りタンデム自転車のミニチュア等を幅広く紹介するとともに、ミニチュア自転車と同タイプの実車を併せて展示した。

入場者数:1,623人

エ.名称:第2回特別展示「BCC 自転車クイズ展」

期間:平成29年11月1日(水)~12月3日(日)

内容:自転車にまつわる様々なオリジナルクイズを作成。クイズのヒントとして関連する完成車やパーツを展示し、来館者の方に回答してもらうことで楽しみながら自転車に関する知識を得る機会を提供。正解数に応じて粗品を進呈した。

入場者数:628人

オ.名称:第3回テーマ展示「-1800年代から現代まで-女性自転車変遷の歴史展」

期間:平成29年12月6日(水)~平成30年3月18日(日)

内容:自転車が登場した当初は女性には乗りにくいものであったが、時代と共に女性が乗りやすくなる工夫やデザインが施されてきた。そんな“女性用自転車”の移り変わりを、実車や国内外の当時の写真、錦絵などで展示紹介した。

入場者数:1,710人

カ.名称:第3回特別展示「日本における自転車レースの始まり展」

期間:平成30年3月21日(水・祝)~3月31日(土)

内容:明治から昭和にかけて、日本における自転車レースの歴史を紹介するパネルと明治時代のトラックレース用自転車を展示。

また、ツアー・オブ・ジャパンのオフィシャル・フォトグラファーを長年務めていた高木秀彰氏の TOJ2017 で撮影された写真や撮影に使用したカメラ等を展示。

入場者数:173人

*展示入場者数合計 6,177人

④ 自転車教室(楽しさと安全利用)

自転車の楽しみや魅力を伝えることを目指して、夏休み期間中に一般の人が参加・体験でき、特に子供たちが夏休みの自由研究にも活用できる教室を開催した。また併せて、自転車の正しい乗り方についての講話も行い自転車の安全利用講習を行った。

開催名:自転車文化センター「夏休み自転車教室」

開催日:平成29年8月21日(月)、22日(火)/2日間開催

開催場所:科学技術館4階 実験スタジアムL

開催時間及び内容:

12:45~13:25 第1回「自転車は何故倒れないのか?」、「自転車に正しく乗りましょう」

14:30~15:10 第2回「自転車の素材を調べてみよう」、「自転車に正しく乗りましょう」

参加人数:8/21(月) 第1回 子ども 39人、保護者 40人、計 79人

第2回 子ども 11人、保護者 9人、計 20人

8/22(火) 第1回 子ども 34人、保護者 29人、計 63人

第2回 子ども 16人、保護者 14人、計 30人

合 計 子ども 100人、保護者 92人、計 192人

また、地方自治体等からの依頼を受けて、当センター学芸員や自転車安全教育指導員資格を有するスタッフが講師となり、小・中学生や一般社会人・高齢者等を対象に、パワーポイントを使った座学講習や、当センター所有の自転車シミュレーターなどによる実技体験を盛り込んだ出張形式の自転車交通安全教室を開催した。

さらに、美術館等の依頼を受け、トークショー出演等も行った。

ア.「明治の日本における自転車レースと茅ヶ崎」内トークショー講演

日時 平成29年4月15日(土) 14:00~15:00

場所 茅ヶ崎市美術館 アトリエ

主催 公益財団法人茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団

内容 茅ヶ崎市美術館において、企画展市制 70 周年記念「自転車の世紀ー誕生から 200 年、新たな自転車の 100 年が始まるー」展を平成 29 年 4 月 9 日(日)～6 月 4 日(日)に開催し、催事内のトークショーにて講演を行った。

参加者数 30 人

イ.「自転車とモード展～門外不出のヤガミ・コレクション」内トークショー講演

日時 平成 29 年 5 月 12 日(金) 18:00～19:00

場所 伊藤忠青山アートスクエア

主催 青山商店会連合会、NPO 法人アップタウン青山コンシェルジュ

内容 伊藤忠青山アートスクエアにおいて、八神史郎氏のコレクションに纏わるトークショーをギャラリー内で開催、アートテラーである、とに～氏と共に講演を行った。

参加者数 35 人

ウ.「自転車シミュレーターを使った自転車安全講習会」

日時 平成 29 年 5 月 26 日(金) 13:30～14:35

場所 品川区立戸越小学校 体育館

主催 品川区防災まちづくり部(土木管理課交通安全係)

内容 同小学校の 3 年生を対象に、自転車を安全に利用するために必要な交通ルールやマナーの解説及びシミュレーターによる実技講習を行った。

参加者数 65 人

エ.「自転車とオートバイ事故を防ぎ、安全に快適に」アクティブラーニング講義

日時 平成 29 年 6 月 30 日(金) 9:00～10:30

場所 関東学院大学 フォーサイト 404

主催 関東学院大学

内容 関東学院大学経済学部にて開催するアクティブラーニング「自転車とオートバイ事故を防ぎ、安全に快適に」と題した講義を行った。

参加者数 65 人

オ.「親子自転車交通安全教室」

日時 平成 29 年 7 月 8 日(土) 10:00～

場所 川崎市立西御幸小学校 体育館

主催 川崎市幸区 PTA 協議会

内容 川崎市幸区 PTA 協議会による「親子自転車交通安全教室」開催の中で交通事故撲滅の為に「自転車のルールとマナーについて」講話を行った。

参加者数 350 人

カ.「自転車開発とレースに夢を描いた日本人」催事内講演

日時 平成 29 年 8 月 27 日(日) 14:00～15:30

場所 郡山市立美術館多目的スタジオ

主催 郡山市立美術館

内容 郡山市立美術館にて「自転車の世紀ー誕生から 200 年、新たな自転車の 100 年が始まるー」展を平成 29 年 7 月 22 日(土)～9 月 24 日(日)に開催し、催事内の講演会にて講演を行った。

参加者数 24 人

キ.「シルバー人材センターにおける自転車事故状況と事故防止対策について」

日時 平成 29 年 9 月 29 日(金) 15:00～16:00
場所 東京しごとセンター 地下 2 階 講堂
主催 公益財団法人東京しごと財団
内容 シルバー人材センター職員を対象とした「シルバー人材センター安全大会」内
において講義を行った。

参加者数 176 人

ク.「自転車シミュレーターを使った自転車交通安全教室」

日時 平成 29 年 10 月 24 日(火) 13:30～16:00
場所 東京しごとセンター 4 階 403 教室
主催 公益財団法人東京しごと財団
内容 都内シルバー人材センター新任安全管理員を対象とした講習会を開催し、講
義を行った。

参加者数 24 人

ケ.「自転車シミュレーターを使った自転車交通安全教室」

日時 平成 29 年 11 月 7 日(火) 14:00～16:00
場所 小島社会教育館 2 階ホール
主催 公益社団法人台東区シルバー人材センター
内容 シルバー人材センター会員を対象とした高齢者の自転車利用時の安全対策、
事故防止、ルール・マナー等について講義を行った他、自転車シミュレーターを
使った安全走行体験を行った。

参加者数 39 人

コ.「自転車シミュレーターを使った自転車交通安全教室」

日時 平成 29 年 11 月 17 日(金) 13:30～16:00
場所 東京しごとセンター 4 階 403 教室
主催 公益財団法人東京しごと財団
内容 都内シルバー人材センター新任安全管理員を対象とした講習会を開催し、講
義を行った。

参加者数 14 人

サ.「自転車シミュレーターを使った自転車交通安全体験」

日時 平成 29 年 11 月 18 日(土) 11:00～12:00
場所 しながわ中央公園多目的広場
主催 品川区防災まちづくり部
内容 「品川交通安全フェア」開催内にて自転車シミュレーターによる安全運転体験を
一般の来場者向けに行った。

参加者数 約 200 人

シ.「自転車シミュレーターを使った自転車交通安全マナー出張授業」

日時 平成 29 年 12 月 20 日(水) 9:50～12:00
場所 千葉県立船橋法典高校
主催 一般社団法人自転車協会
内容 千葉県立船橋法典高校の全校生徒を対象に、自転車通学時の交通安全やル
ール・マナーについて講義を行った。

参加者数 696 人

ス.「自転車安全運転講習会」

日時 平成 30 年 1 月 25 日(木) 13:30～15:30

場所 平塚市役所 5 階研修室

主催 平塚市

内容 「公務災害防止研修会」開催にあたり、平塚市役所勤職員を対象とした自転車利用時の安全対策、事故防止、ルール・マナー等について講義を行った他、自転車シミュレーターを使った安全走行体験を行った。

参加者数 26 人

セ.「自転車シミュレーターを使った自転車交通安全研修会」

日時 平成 30 年 2 月 19 日(月) 10:30～12:00

場所 川崎ふたば幼稚園ホール

主催 学校法人ふたば学園 川崎ふたば幼稚園

内容 幼稚園児保護者を対象とした自転車利用時、特に子ども乗せ自転車の安全対策、事故防止等について講義を行った他、自転車シミュレーターを使った安全走行体験を行った。

参加者数 17 人

ソ.「自転車シミュレーターを使った自転車交通安全講習会」

日時 平成 30 年 2 月 23 日(金) 10:00～12:00／13:30～15:30

場所 葛飾区シルバー人材センター3 階会議室

主催 公益社団法人葛飾区シルバー人材センター

内容 シルバー人材センター会員を対象とした高齢者の自転車利用時の安全対策、事故防止、ルール・マナー等について講義を行った他、自転車シミュレーターを使った安全走行体験を行った。

参加者数 午前 16 人／午後 16 人

タ.「東京サイクルデザイン専門学校教員レクチャー(道交法改正について)」

日時 平成 30 年 3 月 17 日(土) 14:00～15:30

場所 東京サイクルデザイン専門学校デザイン教室内

主催 学校法人水野学園 東京サイクルデザイン専門学校

内容 東京サイクルデザイン専門学校教員を対象として、道路交通法改正について講義を行った。

参加者数 6 人

チ.「走る視点・歩く視点 あなたを守る自転車講座-高齢者の自転車事故を防ぐために-」

日時 平成 30 年 3 月 19 日(月) 14:30～16:00

場所 文京シビックセンター スカイホール

主催 社会福祉法人福音会 文京区富坂地域包括支援センター
高齢者あんしん相談センター富坂

内容 文京区在住・在勤者を対象とした高齢者の自転車利用に係る事故防止、安全運転、ルール・マナー等について講話を行った。

参加者数 25 人

⑤自転車常設企画展示

年間約 50 万人が来館する「科学技術館」(千代田区北の丸公園内)2 階に、歴史的自転車実物等の展示室『自転車広場』を出展した。

□展示場所:科学技術館 2 階(東京都千代田区北の丸公園 2-1)

また、自転車のテーマパークである「日本サイクルスポーツセンター」(静岡県伊豆市)及び新設されたベロドロームにおいて、多数の来場者に対して自転車の歴史と利用促進を普及啓発する常設企画展示を行った。

□展示場所:日本サイクルスポーツセンター(静岡県伊豆市大野 1826 番地)

□内容(各展示共通):自転車文化センター各施設紹介パネルの展示、自転車及び関連物品展示等

□期間(各展示共通):平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

⑥自転車利用環境調査研究レポート

自転車文化の継承と普及、ならびに現在・未来における“人と自転車・社会と自転車”との関わりを考えるための調査研究として、下記の 5 テーマ/計 6 本のレポートを作成し、平成 30 年 3 月末に調査研究報告書を印刷・発行し、全国都道府県立図書館や 47 都道府県交通安全協会・都道府県サイクリング協会等に配布した。

*当センターホームページにおいて公表 <http://www.cycle-info.bpaj.or.jp/research/>

【自転車交通安全への取り組み】

・今取り組むべき課題「自転車の交通安全教室」の必要性について

【自転車利用促進】

・サイクリングツアーのすすめ

【子乗せ自転車の利用】

・子乗せ自転車利用者のヘルメット着用についての考察

【自転車の普及啓発活動】

・2018 ハンドメイドバイシクル展についての考察

【高齢者の自転車利用】

・高齢者のハンドルとサドルの高低差による自転車運転状況調査
(人類働態学会会報第 106 号掲載)

・高齢者の自転車転倒事故と道路環境
(人類働態学会会報第 106 号掲載)

(3)バイコロジー推進事業

①バイコロジー地方組織開催事業

現在、地球温暖化防止が世界的な緊急課題となっており、自転車の持つ可能性に大きな期待が高まっている。また、自転車乗用環境整備の立ち遅れ、自転車利用者モラルの低下などによる、放置自転車問題、交通事故の増加等が社会問題として派生しており、その解決を図ることが喫緊の課題である。こうした状況を改善していくための方策の一つとして、全国的な規模でバイコロジー運動を実施している。

バイコロジーとは「自転車が安全かつ快適に利用できる自然豊かで人間味あふれる社会の構築を目指す」を理念としており、その推進のため統一キャンペーン事業や各地域の組織が創意工夫した事業を展開した。

ア.バイコロジーをすすめる会総会

日時:平成 30 年 3 月 20 日(火)15 時～

場所:自転車総合ビル 601 会議室

議題:・平成 30 年度バイコロジー運動方針について

・平成 30 年度バイコロジー統一事業の概要について

イ.バイコロジー地域活動

平成 29 年度バイコロジー運動方針に基づき、バイコロジー地方組織の統一活動として交通ルールの遵守と自転車乗用マナーの向上を訴えるキャンペーン活動を春と秋の全国交通安全運動の期間及び 5 月の自転車月間期間中に実施し、全国的な普及啓発を図った。また全国のバイコロジー地方組織が行う独自の事業として、自転車乗用環境の整備促進、放置自転車の一掃、自転車交通事故の解消、自転車による健康づくり等をテーマにした各種事業が実施された。(参考:高齢者への自転車交通安全教室など自転車交通安全関係事業、タンドム自転車走行会など自転車による健康づくり等事業 ほか)

②自転車市民権セミナー開催

乗用時に CO2 を排出せず、環境に優しい乗り物である自転車利用を促進し、自転車の素晴らしさを広く普及啓発するために、自転車を取り巻く様々な問題を一般の方々と共に考え「自転車市民権」の確立を目指す場として、参加者のニーズに応えるため、その時々々のタイムリーなテーマを設定し、各界の第一線で活躍されている学識経験者や有識者を招聘し講演いただくことで、自転車の新たな情報の発信の場としての役割を創出することができた。

開催場所については、本会会議室(目黒自転車総合ビル 6 階 601 会議室)にて、計 5 回自転車セミナーを開催した。

ア.第 1 回自転車セミナー<10 月 4 日(水)18 時~19 時 30 分>

講師:松井 靖浩 氏((独)自動車技術総合機構 交通安全環境研究所 主席研究員)
及川 昌子氏(首都大学東京 システムデザイン学部 特任助教)

テーマ:「自転車乗員保護へ向けた総合的な取り組み」

参加者:22人

イ.第 2 回自転車セミナー<12 月 13 日(水)18 時~20 時>

講師:堂城 賢 氏(自転車ティーチングプロ)

テーマ:「2017 自転車の乗り方の基本を創る」

参加者:54人

ウ.第 3 回自転車セミナー<1 月 31 日(水)18 時~20 時>

講師:三船 雅彦 氏(元プロサイクルロードレーサー)

テーマ:「ロングライドの向こう側へ」

参加者:52人

エ.第 4 回自転車セミナー<3 月 10 日(土)18 時~19 時 30 分>

講師:ブラッキー中島 氏(ウィーラーズスクール主宰)

テーマ:「ウィーラーズスクール指導者講習会」

参加者:16人

オ.第 5 回自転車セミナー<3 月 22 日(木)18 時~19 時 30 分>

講師:マルコ・ファヴァロ 氏(CICLISTAINGIAPPONE 代表)

テーマ:「自転車競技人気、1 日にしてならず。ロードレースの受難の道から栄光へ。」

参加者:24人

③バイロロジー地域リーダー養成セミナー

地方におけるバイロロジー運動のリーダーを育成し自転車市民権運動の活性化を図ることを目的として、自転車を安心して乗ることが出来る環境づくりや今後の自転車のあり方を検討するバイロロジー指導者養成セミナーを開催した。

開催日 平成 29 年 11 月 14 日(火)東京都品川区／自転車総合ビル 601 会議室

内 容 ア.講演【13 時 30 分～15 時】

講 師:宮内忍氏(日本コミュニティ サイクルツーリズム研究委員会顧問)

テーマ:広域サイクリングルート設定の取り組み～台湾の“環島”とサイクリングア
일랜드四国～」参加者:56 人

イ.バイロロジー地方組織意見交換会【15 時～16 時 30 分】

全国 18 都道府県のバイロロジー地方組織関係者 21 名と本会事務局で、日頃の活動状況に関する情報交換・今後の事業展開に関する意見交換を実施した。

(4)自転車ポタリング

自転車は軽車両であり、車の仲間であり車道の左側を走行する乗り物であることを、一般の方に改めて知ってもらう機会として、参加者の方に楽しみながら自転車に乗ってもらい、自転車の正しい乗り方、ルールやマナー、車道走行する際の注意点等を学ぶ場を創出することを目的として、本年度においては上記(3)の②セミナー第 4 回で、関連するテーマの講師を招聘し子供達が参加体験できる機会を設けた。

(5)自転車利用実態調査

都内における自転車利用の実態を把握するための走行台数、走行空間等の調査である「自転車走行状況の定点調査」を、自転車総合ビル前(全日／午前午後各1回)・白金幼稚園前(毎月／午前午後各1回)の2ヶ所で行い、その内容を本会 HP に掲出した。

全般的に歩道走行が多く、自転車の車道左側通行が浸透しておらず、更なるルール・マナー啓発の必要性がある。

3. 自転車 ADR 事業

本年度受付数 17 件、調停日数 10 回、和解成立数 3 件。

また、自転車 ADR センター会議を開催した。

①平成 29 年度第 1 回自転車 ADR センター会議

- ・開催日時 : 平成 29 年 6 月 9 日(金) 14 時
- ・開催場所 : 自転車総合ビル 6 階 602 会議室
- ・議 題 : ア.平成 28 年度事業報告・決算報告について
イ.自転車 ADR センター事業状況報告について
ウ.調停委員の変更について
エ.その他

②平成 29 年度第 2 回自転車 ADR センター会議

- ・開催日時 : 平成 29 年 9 月 6 日(水) 14 時
- ・開催場所 : 自転車総合ビル 6 階 602 会議室
- ・議 題 : ア.自転車 ADR センター事業状況報告について

イ.その他

③平成 29 年度第 3 回自転車 ADR センター会議

- ・開催日時 : 平成 29 年 12 月 6 日(水) 14 時
- ・開催場所 : 自転車総合ビル 6 階 602 会議室
- ・議 題 : ア.自転車 ADR センター事業状況報告について

イ.その他

④平成 29 年度第 4 回自転車 ADR センター会議

- ・開催日時 : 平成 30 年 3 月 7 日(水) 14 時
- ・開催場所 : 自転車総合ビル 6 階 601 会議室
- ・議 題 : ア.平成 30 年度事業計画について
イ.平成 30 年度収支予算について
ウ.自転車 ADR センターの事業状況報告について
エ.その他

4. 自転車関連機器の普及等事業

投票業務用機器等の新機器導入のため、東京都十一市競輪事業組合等と新規にリース契約を下表のとおり締結した。

| No. | リース先 | 契約日 | リース物件・機器代金 | リース期間 |
|-----|------------------------------|-----------------------------|--------------------------------|----------------------|
| 1 | 伊東温泉競輪場 (三生興産(株)) | リース H29.3.27 工事 H29.3.27 | 着順表示システム他 106,581,547 円(税込) | 5 年 H29.5～ H34.4 |
| 2 | ラ・ピスタ新橋 (ラ・ピスタ新橋管理施行者協議会) | リース H29.5.17 工事 H29.5.17 | 投票機器等一式 546,378,544 円(税込) | 5 年 H29.6～ H34.5 |
| 3 | 京王閣競輪場 (東京都十一市競輪事業組合) | リース H29.8.18 工事 H29.8.18 | 3 場併売用投票端末 73,041,342 円(税込) | 5 年 H29.10～ H34.9 |
| 合 計 | | | 3 カ所 3 契約 | |

また、自転車競技の円滑な運営と高い競技レベルの維持に資するため、競技用自転車タイヤに関し、本会で製品の備蓄を行い、利用者に販売する他、関連する自転車アクセサリーの販売も行った。

5. 財団の運営に関する業務

※理事会、評議員会、赤坂一丁目地区市街地再開発組合各種会議の詳細内容については、「Ⅲ. 庶務事項(P.22～)」を参照。

平成 29 年 6 月 23 日、平成 28 年度公益目的支出計画実施報告書を内閣府公益等認定委員会に、電子申請により提出した。

「自転車総合ビル(目黒)」関係では、管理運営・保守業務を行うとともに、ビル竣工から 25 年以上が経過しているため、大規模改修工事(外壁の補修等)を 2 月 19 日より着手(平成30年5月中旬完了予定)した。また、「赤坂一丁目再開発ビル(正式名称:赤坂インターシティAIR)」については、平成 29 年 8 月 31 日に竣工した。

***なお、以下の事業については、(公財)JKAの公益振興補助事業として実施した。**

1. 自転車競技の普及促進事業
 - (1) ツアー・オブ・ジャパン開催の全体管理に関する事業
 - (2) ツアー・オブ・ジャパン富士山・東京ステージ開催・広報事業
2. 自転車と人にやさしい健康で安全な社会づくりを推進する活動
 - (1) 自転車月間推進事業
 - (2) 自転車文化センター運営事業
 - ① 自転車に関する総合情報提供事業
 - ② 自転車に関する企画催事の実施
 - ③ 自転車に関するテーマ展示
 - ④ 自転車教室(楽しさと安全利用)
 - ⑤ 自転車常設企画展示(科学技術館内自転車広場)
 - ⑥ 自転車利用環境調査研究
 - (3) バイコロジー推進事業

【参考】

各種委員会等会議一覧(平成 29 年度開催実績分)

1. 自転車月間推進協議会総会
2. TOUR OF JAPAN 組織委員会
3. バイコロジーをすすめる会総会

報告書等印刷物一覧(平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月作成分)

| | 印刷物 | 総部数 |
|-----|---|--------|
| 1. | 「第 20 回ツアー・オブ・ジャパン」告知チラシ(A4) | 13,000 |
| 2. | 「第 20 回ツアー・オブ・ジャパン」ポスター(B2) | 2,500 |
| 3. | 「第 20 回ツアー・オブ・ジャパン」プログラム | 10,000 |
| 4. | 「第 20 回ツアー・オブ・ジャパン」報告書 | 2,200 |
| 5. | 「第 20 回ツアー・オブ・ジャパン」東京ステージ交通規制チラシ(B4) | 61,000 |
| 6. | 「第 20 回ツアー・オブ・ジャパン」東京ステージ交通規制バスポスター(B3) | 300 |
| 7. | 「第 20 回ツアー・オブ・ジャパン」レースマニュアル | 300 |
| 8. | 自転車安全利用促進キャンペーンパンフレット | 78,000 |
| 9. | 自転車月間「自転車の日」記念行事事業報告書 | 300 |
| 10. | 自転車月間「自転車の日」記念行事『サイクルドリームフェスタ 2017』チラシ | 10,000 |
| 11. | 自転車月間「自転車の日」記念行事『サイクルドリームフェスタ 2017』ポスター | 160 |
| 12. | 平成 29 年度自転車文化センター研究報告書(第 10 号) | 300 |